



令和6年4月30日 第2号
江戸川区立下鎌田小学校
校長 黒澤 義和

学習習慣の大切さ

副校長 山本 秀樹

木々の新緑がまぶしい季節となりました。先日は学校公開でご来校いただきありがとうございました。保護者会の参加率は1年生88%、2年生83%、3年生85%、4年生81%、5年生80%、6年生67%でした。今年度最初の学校公開、1年生は入学して2週間ですが、日に日にたくましく、成長しています。6年生は1年生のお世話をしたり、委員会などの縦割りの活動でリーダーに立候補したりして最高学年としての自覚が高まっているのを感じます。2年生から5年生も、新しい友達、新しいクラスにも徐々に慣れ、意欲的に活動しています。

さて、学校では5月は2日に遠足がありますが、それ以降は6月まで比較的行事も少なく、じっくりと何かに取り組むことができる期間になります。そこで、この2か月の間に身に付けさせたいのが学習習慣です。

ではなぜ、学習する習慣が大切なのでしょうか。

アメリカの心理学者にエリクソンという人がいます。エリクソンは人生を8つの段階に分け、それぞれの時期に達成すべき課題があると考えました。その中で、学童期の子供は自分の得意や苦手なことを知り、積極性を生かして目標を達成していくことで「勤勉性」を得ることが大切だと説きました。ここで注目したいのは「苦手なことを知った上で努力する」という姿勢です。子供たちが成長していく過程では、「わかった」「できた」という成功体験だけではなく、「できなかった」「難しかった」という場面にも出会います。「できなかった」から苦手を学び、それを繰り返し克服していく体験をたくさんすることで、子供たちは成長していくのです。そして、このような体験を得やすいのが毎日の学習です。学習から最大限の学びを得るためにも、日常的に学習に取り組む習慣を早い段階で身に付けさせたいと思います。

私自身もそうですが、我々大人は子供かわいさのあまり、子供が苦勞しないようにその芽を摘んでしまいがちです。「苦勞する姿を見るとかわいそうだ」「うちの子が悩まなくていいように」などとついつい事前に心配し、手を回し、子供が苦勞する機会を減らしていることがあります。大人ができることは、「何かをしてあげる」だけではなく、「子供の良さを発見し、励ます」「苦手なことも頑張っている姿を認める」に徐々に移行していくことだと思います。それが子供の有用感を引き出し、生涯にわたって課題を解決していく能力を育てていくことにつながるのです。

私の大好きな本に角野栄子さんの『魔女の宅急便』という物語があります。この主人公のキキは魔女ですが空を飛ぶこととわずかな薬を作る以外ではできません。そこで、キキは自分の得意な「空を飛ぶこと」を活かして宅急便を始めます。初めはたくさんの失敗を繰り返し、自分の足りない部分にも否応なく気付かされます。ですが、キキはそれを否定的にとらえるのではなく、前向きに努力することで前よりも一層優しくなり、素敵なたくさんの友達ができていきます。

苦手や苦勞を乗り越えて学ぶことは学ぶ力の向上だけでなく、人に対して優しい心をもつことにもつながっていきます。今後も子供たちの成長のために温かなご支援とご協力をお願いいたします。

<5月の月目標>

- 生活目標 友達と仲良くしよう
- 保健目標 けがに気をつけて運動しましょう
- 給食目標 好き嫌いしないで食べましょう

